

經濟論叢

第七十九卷 第三號

故 谷口吉彦博士、故 松岡孝兒博士遺影ならびに署名

觀光税の問題点……………	神 戸 正 雄	1
米国外投資の成熟と停滞……………	岡 田 賢 一	14
財政学と国家認識……………	斎 藤 博	37
故 谷口吉彦博士略歴・主要著書論文目録……………		55
追憶文（石川興二・松井 潜・河野健二）		
故 松岡孝兒博士略歴・主要著書論文目録……………		69
追憶文（中川与之助・中谷 実・酒井一夫）		

昭和三十三年三月

京 都 大 學 經 濟 學 會

故松岡孝児博士略歴

明治二十六年十一月十六日 神奈川県横浜須賀市に生る
 大正 三年 五月 陸軍士官学校卒業
 大正 三年 十二月 陸軍歩兵少尉
 大正 五年 四月 東京外国語学校仏語科入学
 大正 七年 三月 同校卒業
 大正 八年 九月 京都帝国大学経済学部入学
 大正 十二年 三月 経済学士試験合格
 大正 十二年 五月 京都帝国大学経済学部助手
 昭和 三年 四月 京都帝国大学経済学部講師
 昭和 九年 二月 京都帝国大学助教
 昭和 十二年 十月 応召
 昭和 十三年 九月 陸軍歩兵中尉

昭和十四年二月 著書「金為替本位制の研究」により経済学博士の学位を受く

昭和十四年十一月 召集解除

昭和十五年一月 京都帝国大学教授

昭和二十一年五月 依願免本官

なお、京都帝国大学在任中しばしば満支へ出張す。

昭和二十一年九月 教職員不適格者に指定さる。

昭和二十六年六月 教職員不適格の指定を解除さる。

昭和二十七年四月 丸紅(大阪)商店調査室長

昭和二十八年七月 北海道大学教授

昭和三十一年十二月 京都大学附属病院において死去
享年六十三。

故松岡博士主要著書論文目録

著 書	発 行 所	刊 行 年 月
ラコムプ著景気予測法の研究(訳)	南北書院	昭 六 五
金問題研究	有斐閣	八 三
金為替本位制の研究	日本評論社	一 二 六
アルベユル・アフタリヨン著	有斐閣	三 八
貨幣・物価・為替論(訳)		

Fraion de change or au Japon
 アンドレ・トウゼー著
 戦争経済学 (訳)
 Les Frands penseurs francais
 Saint-Simon, Fourier, Louis
 Blanc. 編集
 ジャン・フーラスチニ著
 一九六〇年の世界 (訳)
 アルフレット・ソーグワイー著
 経済観測 (訳)
 シャール・ローブガン著岡田徳一
 共訳
 仏印経済発展論
 アンドレ・トウゼー著
 印度支那貨幣制度の研究 (訳)

日 休 協 会 昭 四 一
 三 省 堂 六 七
 白 水 社 三 四
 有 斐 閣 三 九
 掲 載 誌 卷 号
 經 済 論 叢 六 二
 〃 〃 二 一
 〃 〃 三 三
 〃 〃 三 四
 〃 〃 三 四

貨幣数量説への一考察
 ベルギー国立銀行の改正
 イタリヤに於ける貯蓄銀行
 制度改正に就いて
 昭和四年
 フランスの新貨幣制度に就いて
 ギリシャの新発行銀行に就いて
 軌近フランス経済学界の傾向
 昭和五年
 フランスに於ける庶民銀行に
 就いて
 昭和六年
 フランスに於ける景気変動予測論
 金を纏ぐる英仏の論争
 金問題批判
 金数量説に就いて
 金問題と国際連盟
 景気変動の型より見たる
 独症の失業
 昭和七年
 貨幣価値安定より見たる
 クレジットに就いて
 歴史的発展に於いて見たる
 世界不況
 世界不況対策としての国際
 貸付銀行案

經 済 論 叢 三 二
 〃 〃 三 三
 〃 〃 三 四
 〃 〃 三 五
 〃 〃 三 六
 〃 〃 三 七
 〃 〃 三 八
 〃 〃 三 九
 〃 〃 四 〇
 〃 〃 四 一
 〃 〃 四 二
 〃 〃 四 三
 〃 〃 四 四
 〃 〃 四 五
 〃 〃 四 六
 〃 〃 四 七
 〃 〃 四 八
 〃 〃 四 九
 〃 〃 五 〇
 〃 〃 五 一
 〃 〃 五 二
 〃 〃 五 三
 〃 〃 五 四
 〃 〃 五 五
 〃 〃 五 六
 〃 〃 五 七
 〃 〃 五 八
 〃 〃 五 九
 〃 〃 六 〇
 〃 〃 六 一
 〃 〃 六 二
 〃 〃 六 三
 〃 〃 六 四
 〃 〃 六 五
 〃 〃 六 六
 〃 〃 六 七
 〃 〃 六 八
 〃 〃 六 九
 〃 〃 七 〇
 〃 〃 七 一
 〃 〃 七 二
 〃 〃 七 三
 〃 〃 七 四
 〃 〃 七 五
 〃 〃 七 六
 〃 〃 七 七
 〃 〃 七 八
 〃 〃 七 九
 〃 〃 八 〇
 〃 〃 八 一
 〃 〃 八 二
 〃 〃 八 三
 〃 〃 八 四
 〃 〃 八 五
 〃 〃 八 六
 〃 〃 八 七
 〃 〃 八 八
 〃 〃 八 九
 〃 〃 九 〇
 〃 〃 九 一
 〃 〃 九 二
 〃 〃 九 三
 〃 〃 九 四
 〃 〃 九 五
 〃 〃 九 六
 〃 〃 九 七
 〃 〃 九 八
 〃 〃 九 九
 〃 〃 一 〇 〇

金數量説の發展に就いて
 中央銀行の獨立性より見たる政府貸上金に就いて
 中央銀行の獨立性に就いて
 金為替準備への再吟味

昭和八年

中央銀行役割の發展に就いて
 中央銀行協力の發展に就いて
 世界大戦前に於ける國際銀行設立案の發展に就いて
 ロリヤの見たる世界恐慌信用統制に就いて
 金の意義に就いて

中央銀行の發券準備に就いて

昭和九年

中央銀行兌換準備檢討
 (山本博士選歴記念論文集)
 ブラニヤチアンの信用理論
 レスキュールの長期變動論
 植民地貨幣制度より見たる金為替準備
 金物価と貨幣價值安定
 金為替本位様式の展開に就いて
 世界大戦前に於ける英領印度の金為替本位制に就いて

昭和十年

經濟論叢	壹一	フランス・フランに就いて	經濟論叢	四〇一
經濟史研究	壹三	フランス獨立價選金庫に就いて	經濟論叢	四〇二
經濟論叢	壹四	ミロオの金なき國際交換決済制に就いて	經濟論叢	四〇三
經濟論叢	壹五	フランスに於ける貨幣價值切下論に就いて	經濟論叢	四〇六
經濟論叢	壹六	ベルギー・フランの切下に就いて	經濟論叢	四一〇
經濟論叢	壹七	フランス帝國經濟會議	經濟論叢	四一一
經濟論叢	壹八	日本に於ける金為替本位制の濫觴	經濟論叢	四一四
經濟論叢	壹九	朝鮮に於ける金為替本位制	經濟論叢	四一六
經濟論叢	貳〇	昭和十一年	經濟論叢	四二一
經濟論叢	貳一	支那の貨制改革と其の意義	經濟論叢	四二四
經濟論叢	貳二	フランスに於ける通貨構成變動の意義	經濟論叢	四二五
經濟論叢	貳三	世界大戦前の日本、朝鮮、及滿州の金為替本位制	經濟論叢	四二六
經濟論叢	貳四	昭和十二年	經濟論叢	四三〇
經濟論叢	貳五	北支日米通貨に就いて	經濟論叢	四三二
經濟論叢	貳六	アフタリヨンの貨幣心理説に就いて	經濟論叢	四三三
經濟論叢	貳七	昭和十五年	經濟論叢	四三六
經濟論叢	貳八	法幣インフレーションに就いて	經濟論叢	四三九
經濟論叢	貳九	昭和十六年	經濟論叢	四四〇
經濟論叢	叁〇	戰爭經濟に關する一主張	經濟論叢	四四一
經濟論叢	叁一	仏印幣制論	經濟論叢	四四二

ボ
化論
オル・ペルナルの仏印工業
仏印に於ける信用と其の性格

昭和十七年

仏印國際貸借に関する一考察
最近仏印幣制に於ける二つの
就いてに於ける信用政策に、
就いてに於ける貯蓄及資本に
ガエタ・ピルウの仏印と
ヤスタル
最近に於ける仏印経済の再
編成に於ける協同組合に就
いてに於ける協同組合に就
再組織下にある最近仏印経済

昭和十九年

最近仏印ビヤストルの動向に
就いて

昭和二十四年

新金本位制から見たボ
ン切下

昭和二十五年

金の再評価と世界経済
最近に於ける世界金問題
救済についての一考察
インフレーションの一考察

〃	壹	四
東亞經濟論叢	一	四
經濟論叢	西	一
改革東亞經濟論叢	二	一
經濟論叢	西	五
〃	壹	一
日仏文化		
經濟論叢	壹	五
東亞經濟論叢	二	三
〃	二	四
日仏文化		
國民經濟	四	二
〃	五	四
ペンキング	五	三
〃	六	
銀行及金融	二	

最近における世界金問題

銀行及金融

六

昭和三十一年

所得説と數量説の異同
— アフタリヨンを中心と
して —

ペンキング

六

KYOTO UNIVERSITY ECONOMIC REVIEW

(京都大学經濟學部英文紀要)

On the Quantity Theory of Gold	Vol. 9 No. 1	1934
Early History of the Gold Exchange Standard in Japan	Vol. 10 No. 2	1935
China's Currency Reform and its Significance	Vol. 11 No. 1	1936
On Japanese Currencies Circulating in North China	Vol. 12 No. 1	1937
The Expansion and Consolidation of the Japanese Gold Exchange Standard System	Vol. 12 No. 2	1937
The Inflation of Chinese Legal Tender	Vol. 16 No. 2	1941
The Currency System in French Indo-China	Vol. 17 No. 2	1942
Southern Economy: Its Currency and Financial Problems	Vol. 17 No. 4	1942